

DentalStudyGroup

JODS#21th



JODS

Autumn Convention

2022.10.9(sun) 10:00-17:00

@Vision Center TAMACHI

Dr12000yen DT10000yen DH/DA8000yen Resident8000yen
(事前申込・振込いただくと上記価格より1000円引きとなります)

定員：80名（先着順 定員になり次第募集終了）



岩野 義弘 先生

岩野歯科クリニック院長
新潟大学歯学部卒業

日本大学歯学部歯周病講座 歯学博士

日本大学歯学部 兼任講師(歯周病学)

日本歯周病学会 指導医/歯周病専門医

日本口腔インプラント学会 代議員/指導医/専門医

日本臨床歯周病学会 認定医

アメリカ歯周病学会 会員

OJ 正会員

日本インプラント臨床研究会 副専務理事



小田 師巳 先生

おだデンタルクリニック理事長

岡山大学歯学部卒業

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科終了
(歯学博士)

日本口腔インプラント学会専門医

日本臨床歯周病学会 関西支部理事

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

インプラント再生補綴学分野 非常勤講師

iCEED(Institute for Clinical Expertise
and Evidence in Dentistry)主宰

参加ご希望の方はメンバーに直接連絡していただくか、QRコードより申し込みください

JODS は対面での勉強会、セミナーを大切にしております。画面越しではなく対面で行うにあたり、会場においても消毒、換気またソーシャルディスタンスの確保を可能な限り実施いたします。各自マスク等の感染対策もお願いいたします。開催に伴い人数制限を行う場合もございます。早めの参加登録をお願いいたします。また東京都の感染状況などにより、変更がある場合がございます。予めご了承ください。



JODS事務局係 住所:東京都墨田区江東橋1-11-7 錦糸町スマイル歯科クリニック TEL:03-5600-4182 FAX:03-5600-4186
《振込先》みずほ銀行 西葛西支店561 普通口座 1364131 一般社団法人JODS代表理事 戸澤仁



DentalStudyGroup

JODS#21th

Autumn Convention

2022.10.9(sun) 10:00-17:00

@Vision Center TAMACHI

TIME TABLE

10:00~10:05	代表挨拶
10:05~12:45	岩野義弘先生講演
12:45~12:50	協賛業者挨拶
12:50~13:30	ランチョンセミナー
13:35~14:15	会員発表 (池下正博・正東脩平)
14:20~17:00	小田師巳先生講演

「歯周組織再生療法のディシジョンメイキング」

岩野義弘先生

GTR法から始まった歯周組織再生療法は、エムドゲインの登場やリグロスの保険収載を経て、現在歯周治療においてなくてはならない治療法として多くの先生方に臨床応用されています。上皮や結合組織の侵入を排除して再生を促すために、再生医療の考え方が歯周領域にも応用され、ティッシュエンジニアリングの概念の下、足場としての骨補填材やバリアメンブレン、シグナル因子としての歯周組織再生剤といったさまざまなバイオマテリアルが開発されてきました。歯根膜の存在する条件において、EMDやrhFGF-2といったシグナル因子を作用させ、適切な足場を提供することで、かつては保存困難であった歯も保存させることが可能となってきました。材料学的進歩と併せて、歯間乳頭を保存し、血餅を保護するための外科術式の発展も、その良好な予後の獲得に貢献してきました。拡大鏡やマイクロスコプを用いた拡大視野下での治療は、歯周組織再生療法の予測可能性向上に大きく貢献してきました。しかしながら成功のためには、単にバイオマテリアルを用いれば良いというわけではなく、プラークコントロールの徹底や動揺歯の固定と併せて、条件に応じた切開縫合法の選択が重要と考えます。そこで本講演では、文献の披歴と症例の供覧を基に、歯周組織再生療法を成功させるために有効な術式ならびにディシジョンメイキングについて、現在の私の考え方をご紹介しますとともに皆様と共にディスカッションできればと思います。

「安全で予知性の高い硬組織造成術」

小田師巳先生

上部構造装着後の辺縁軟組織の退縮を抑止するためには、インプラント唇側に2 mm以上の厚みの硬組織が必要とされている。そのため、既存骨の厚みが薄い場合は、何かしらの硬組織造成術が必要となる。従来、インプラントの初期固定を得るだけの骨幅もない、いわゆるナイフエッジ状の歯槽骨においてはブロック骨移植が推奨されてきた。しかし、採取したブロック骨を母床骨に適合させにくいのが難点であった。

そのような中、Urbanは粉碎自家骨と吸収スピードの遅い骨補填材を混合し、吸収性メンブレンとピンで固定するソーセージテクニックを発表した。このテクニックは、顆粒状の混合移植材を用いるため母床骨との適合を心配する必要がなく、創の裂開率が低い吸収性メンブレンを用いているため、比較的安全な術式であると考えられる。一方で、外側からの圧が集中する歯槽堤唇側のショルダー部分での吸収量が顕著なことが難点である。また、吸収性メンブレンでは垂直的なスペース保持能力に乏しいことから、垂直的な造成を目的にする場合には、強化フレーム付き非吸収性メンブレン（d-PTFEメンブレンやTiハニカムメンブレン）やチタンメッシュなどを用いる必要がある。そこで本講演では、垂直的な硬組織造成術に必要なこれらの非吸収性メンブレンの特徴について、それぞれ実際の臨床例を交えながら、現在報告されているエビデンスを基にわかりやすく解説したいと思う。

JODS事務局係 住所: 東京都墨田区江東橋1-11-7 錦糸町スマイル歯科クリニック

TEL: 03-5600-4182 FAX: 03-5600-4186

《振込先》みずほ銀行 西葛西支店561 普通口座 1364131 一般社団法人JODS代表理事 芦澤仁

BIOHORIZONS® Branding Technology

Dentsply Sirona

ULTRADENT JAPAN 株式会社

invisalign Japan
インビザラインジャパン株式会社

NHOSA

ZimVie

YOSHIDA

GENOVA

KAVO

相田化学工業株式会社
Aida Chemical Industries Co., Ltd.